

令和5年度第3回狭山市社会教育委員会 会議録

開催日時 令和6年2月8日(木)
13時30分から15時45分まで
開催場所 狭山市立中央図書館 視聴覚室
出席者 横山委員 石塚委員 八瀬邊委員 鈴木委員
今福委員 角田委員 齊藤委員 小熊委員
中間委員 河口委員 田中委員 平岡委員
上西委員
欠席者 佐野委員 黒川委員 恵比須委員 中谷委員 橋北委員
菅野委員 田ノ上委員
事務局 内藤生涯学習部長 石井社会教育課長 小高 小暮 三ツ木
傍聴者 0名

1 開 会

2 あいさつ 生涯学習部長

3 あいさつ 横山議長

4 報告

ア. 令和5年度狭山市二十歳の集いの結果について

令和6年1月7日に開催した令和5年度狭山市二十歳の集いの結果について事務局から報告し、意見を聴取した。

委員 当日の配信を見たが、壇上の映像メインだったのが気になった。視聴している人のほとんどは会場に入れなかった保護者だと思うので、会場の雰囲気分かるような全体映像もあった方が良く思う。

また、自分が所属するネットワークの美容師の方より、開始時間が早すぎるのではないかという意見があった、女性は着付けの関係で、今年は朝4時から準備を始めたケースもあったと聞いた。もう少し開始時間を遅らせてもらえれば参加者の負担軽減にもつながると思う。

それから、家庭の事情により振袖等の準備ができない家庭があるという話も聞いている。親としては準備をしてあげたいのであろうが実際にそういう家庭もあるという事実を知っておいてもらいたい。

事務局 開始時間については若干遅らせるように来年度調整していきたい。

振袖についてはボランティアによる貸出等が行われている自治体があることは承知しているが狭山市ではそこまで至っていない状況である。今回いただいた意見を持ち帰り報告させていただきたい。

また、ライブ配信については肖像権の問題で出席者の顔が写りこむようなカメラ配置は難しいという問題があるが来年度以降ライブ配信をするさいに検討をしていきたい。

議長 昨年、今年と出席させてもらったが、昨年度の2部制に比べ今回の1部制は多少時間の調整がしやすいのではないかと感じた。1部制にすることにより1度に発表者全員が登壇するなど難しいところもあると思うが、是非検討をしてもらいたい。

イ. 令和5年度社会教育関連事業実施状況について（中間報告）

令和5年度社会教育関連事業実施状況について事務局から報告し、意見を聴取した。

委員 資料の2. 生涯学習推進事業（4）生涯学習まちづくり出前講座の利用件数と利用人数は、社会教育課を通さずに直接所管課に依頼したのももカウントされているのか。

事務局 出前講座の利用件数と利用人数は、各所管課に直接依頼のあったものも含めた件数をカウントしている。

委員 利用件数に対して利用人数が多いように感じるが、依頼の多かった出前講座はどのようなものか。

事務局 手元に資料がないのではっきりとした回答はできないが、交通安全教室などが多かったと記憶している。1回の講座で学年単位の出席者があるため人数も多くなっている。令和5年度分については、来年度の会議の際にどの講座が多かったかを報告をさせていただきたい。

委員 資料の4. 家庭教育支援事業（1）家庭教育学級について、今回広瀬小と人間川中が開催をしないという報告であったが、今後家庭教育学級を開催しない学校が増えるということはあるのか。親子で参加できるものや、講座の中で複数の要素をいれるなど、今までと同じではなくやり方を変えることを考えた方が良いと思う。

事務局 家庭教育学級については動画配信の視聴も回数としてカウントすることも可能とするなど参加しやすい環境づくりについて考えている。

また、参加者が多かった講座の内容を確認し、情報提供を進めていきたいと考えている。家庭教育学級の重要性は事務局も認識しているので、やり方の変更などを検討しながら今後も継続できるようにしていきたい。

5 協議事項

ア. 狭山市における地域学校協働活動について

上記をテーマに3グループに分かれディスカッション(グループワーク)を行った。各グループの代表により、次のとおり結果発表があった。

Aグループ

- ・ふるさと意識を子供たちに持たせることが大事ではないか、それには人と人のつながりや地域の行事への参加ということが考えられる。
- ・具体的な事例として以下のようなものを行った。こういったきっかけづくりをしないとふるさと意識というのはできないのではないかと思う。また、入間川や秩父連山が見られるといった環境面から地域の良さを感じられるようになるのも大事だと思う。
 - ①地域のお祭りに中学生に参加してもらい、お神輿を担いでもらうことや地域の子ども達の面倒を見てもらうなどを経験し段々と地域の大人たちとふれあいを作った。
 - ②地域の河川清掃を地域の大人と子供で行った。
 - ③学校の除草作業で地域の人とおしゃべりをしながら作業をした。
- ・小中学校長の学校運営の方針も大事だと思う。地域の人たちに学校がどういう子どもを育てたいかを浸透させることにより地域で支援できることが明確になると思う。学校代表と学校運営協議会と地域と一緒に話し合っていかなければ地域学校協働活動を進めるのは難しいのではないか。

Bグループ

- ・今回は取りまとめの方法について協議した。持ち帰らせていただき各委員の意見を取りまとめたうえで、後日改めて提出させてもらいたい。

Cグループ

- ・子どもが主体的に活動できるチャンスを与えることが大事だと考えている。具体的には新しく組織を作るのではなく市民文化祭実行委員会や、公民館活動団体やスポーツ少年団など地域で活動している方の手を借りることで既にある仕組みのなかに、学校のカリキュラムとして一体的に組み込み、各種活動に参加できるようにしていくことで子どもたちが主人公になれるチャンスをつくれるのではないかと思う。

事務局 社会教育委員の意見として地域学校協働活動に関係する研修会等で発表する機会を設けたいと考えている。発表の時期や方法については事務局より改めて連絡させてもらいたい。

6 事務連絡

事務局より配布した図書館、博物館のイベント資料について説明。

7 閉 会 副議長